

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	世界史 A	2	『明解 世界史 A』 (帝国書院)	教科書	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期 中間まで	人類の始まり 東アジアの文明 南アジアの文明 西アジア・北アフリカの文明	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境が文明に与えた影響について理解する。 ・中国文明の特質を学び、日本を含む東アジア世界に与えた影響について理解する。 ・南アジアと西アジアで誕生した諸宗教の特徴を理解する。 ・地中海沿岸各地の自然環境と文明の関連について理解する。 ・今日に残るオリエント文化の影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 中間考査	18
前期 期末まで	西アジア・北アフリカの文明 ヨーロッパの文明 繁栄するアジア 大航海時代と新たな国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教の教義や特徴について理解する。 ・イスラーム世界の拡大について理解する。 ・アテネの民主政と、今日の民主政の相違点を理解する。 ・統治体制の変遷に着目しながら、ローマの歴史を理解する。 ・キリスト教会とローマ帝国、フランク王国の関連について理解する。 ・アジアで栄えたオスマン帝国、ムガル帝国、明清帝国について理解する。 ・大航海時代のポルトガル・スペインが世界に与えた影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 期末考査	18
後期 中間まで	大航海時代と新たな国家の形成 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 東アジアの大変動 第一次世界大戦がもたらしたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権化したヨーロッパ諸国で革命が起こってゆく経緯を理解する。 ・フランス革命とナポレオン戦争を通じ、各国に自由主義と国民主義が広まってゆく点を理解する。 ・産業革命の背景と意義について理解する。 ・欧米諸国の中国分割について学び、日本との関わりについても理解する。 ・第一次世界大戦の原因や性格について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 中間考査	18
後期 期末まで	民族自決を求めて 経済危機から第二次世界大戦へ 冷戦から地球社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌が生んだ新たな国際対立について理解する。 ・ファシズムの台頭を、大衆社会化現象と関連づけて理解する。 ・第二次世界大戦の性格について理解する。 ・戦後の冷戦構造を、核開発競争と関連づけて理解する。 ・米ソの影響力が低下し、多極化が進んだ経緯について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 期末考査	16

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	世界史B	4	『世界史B』 (東京書籍)	教科書	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期 中間まで	文明以前の人類 オリエント世界の成立 オリエント世界の発展 ギリシア世界 ヘレニズム世界 都市国家から世界帝国へ ローマ帝国の繁栄 古代末期の社会と地中海世界の解体	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動による影響に着目し、人類の進化を理解する。 ・地中海岸各地の気候と、文明の関連性について理解する。 ・アテネ民主政が完成に至る経緯と、今日の民主政との違いについて理解する。 ・アレクサンドロス大王の東方遠征により東西世界の融合が進められた点を理解する。 ・ローマの興隆と衰退を、その原因に着目して理解する。 ・初期キリスト教の展開を、ローマ帝国との関連を中心に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 <p>中間考査</p>	36
前期 期末まで	東アジアにめばえた文明 中華帝国の誕生 東方の世界帝国 イスラーム世界の成立 イスラーム世界の発展 イスラーム文明 東ヨーロッパ世界 西ヨーロッパ中世世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・黄河流域と長江流域の新石器文化、殷周王朝の特色について理解する。 ・諸子百家の代表的思想について理解する。 ・秦漢帝国の中央集権的統治体制について理解する。 ・隋唐帝国の統治体制について学び、日本を含む東アジア世界に与えた影響を理解する。 ・イスラーム教の特質と拡大について理解する。 ・キリスト教の東西分裂について理解する。 ・フランク王国とカトリック教会の接近により、西ヨーロッパ世界が形成されていった点を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 <p>期末考査</p>	36
後期 中間まで	封建社会と都市 カトリック教会と十字軍 中世的世界の動揺 ルネサンス 海洋帝国の出現 大交易時代の世界 主権国家群の形成と宗教改革 オランダの繁栄と英仏の追い上げ 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家	<ul style="list-style-type: none"> ・封建制度と荘園制度について理解する。 ・西ヨーロッパ世界拡大の動きを、十字軍を通して理解する。 ・ローマ教皇圏の伸長と衰退について理解する。 ・ルネサンスがイタリアで起こった背景について理解する。 ・価格革命や商業革命の影響について理解する。 ・宗教改革の意義と、諸国の宗教戦争について理解する。 ・絶対王政下のヨーロッパ諸国の動きについて理解する。 ・啓蒙専制国家の「上からの近代化」を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 <p>中間考査</p>	36
後期 期末まで	激化する経済覇権競争 工業化と社会問題の発生 合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 フランス革命 ナポレオン戦争	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命の背景について理解する。 ・産業革命後の社会構造の変化について理解する。 ・アメリカ合衆国の独立と領土拡大の動きを理解する。 ・フランス革命の展開を、各階級の動向に着目しながら理解する。 ・フランス革命とナポレオン戦争を通じて、自由主義や国民主義運動が広まった点を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用力 <p>期末考査</p>	32

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	日本史 A	2	日本史 A 現代からの歴史 (東京書籍)	教科書	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期 中間まで	近代の萌芽 開国から幕府の滅亡 明治初期の諸改革と外交	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米列強のアジアへの進出を理解する。 ・開国と貿易開始とその影響を理解する。 ・幕末の動乱の経緯について理解する。 ・倒幕運動の展開と新政府の成立について理解する。 ・維新改革の内容とその後の影響を理解する。 ・明治初期の外交の特色と領土画定の経緯を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・関心、意欲 <p>中間考査</p>	18
前期 期末まで	自由民権運動の展開 立憲体制の成立と条約改正 日清・日露戦争と国際関係 産業革命の進展と資本主義の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動の特色と政府の姿勢について理解する。 ・大日本帝国憲法の特色について理解する。 ・条約改正交渉の経過と国際関係について理解する。 ・日清戦争にいたる経緯と結果を理解する。 ・日露戦争について国際的な動向をふまえて理解する。 ・韓国併合の過程を、国際関係を踏まえながら理解する。 ・資本主義の確立と社会運動の発生を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・関心、意欲 <p>期末考査</p>	18
後期 中間まで	国民生活の変化 第一次世界大戦前後の国内外の動向 政党政治の展開 戦間期の国内外の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・この時期の学問・文化の進展について具体的に理解する。 ・第一次世界大戦における日本の動きを理解する。 ・戦後の国際的な協調体制の内容について理解する。 ・護憲運動と政党内閣の成立の経緯を理解する。 ・恐慌が続く中で協調外交が挫折していくことを理解する。 ・世界恐慌によって社会不安が増大したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・関心、意欲 <p>中間考査</p>	18
後期 期末まで	戦間期の国内外の動向 第二次世界大戦前後の国内外の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・満州事変と軍部の台頭の経緯について理解する。 ・保護貿易など世界恐慌に対する各国の対策を理解する。 ・二・二六事件とその後の政治的影響について理解する。 ・日中戦争の長期化と国内の単独体制について理解する。 ・第二次世界大戦に日本が関わっていく経緯を理解する。 ・大戦終結の過程を国内外の情勢を踏まえて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・関心、意欲 <p>期末考査</p>	16

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	日本史B	4	詳説日本史B (山川出版社)	教科書	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 推古朝の政治 律令国家の成立 平城京の時代 平安初期の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の変化に着目して原始時代を理解する。 ・大陸との関係・中国文献を踏まえ、弥生時代の社会の変化、ヤマト政権の成立を理解する。 ・律令制度の確立過程とその政治体制の特色を理解する。 ・東アジア世界との交流や鎮護国家思想、藤原氏の進出と政界の動揺について理解する。 ・平安京遷都や東北経営の背景や意義について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用 中間考査	36
前期期末まで	摂関政治 地方社会の変容 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 執権政治 幕府の衰退と社会の変容 建武の新政 南北朝の動乱	<ul style="list-style-type: none"> ・北家発展の経緯と摂関政治の仕組みについて理解する。 ・武士団の成長と武士の中央進出の経緯について理解する。 ・荘園公領制成立までの荘園支配の動向について理解する。 ・院政の特色、平氏政権の成立について理解する。 ・鎌倉幕府の支配機構と封建制度について理解する。 ・執権政治の特色及びその変容について理解する。 ・建武の新政の内容と南北朝の動乱の経緯について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用 期末考査	36
後期中間まで	室町幕府の成立 勘合貿易 庶民の台頭 戦国時代 織豊政権 幕藩体制の成立 初期外交と鎖国 文治政治 経済の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・守護大名と、室町幕府の支配機構を理解する。 ・勘合貿易の推移と経済の発展について理解する。 ・応仁の乱の原因と影響について理解する。 ・代表的な戦国大名が登場する経緯や分国支配を理解する。 ・ヨーロッパ世界との接触の影響を視野に入れて、織豊政権の特色を理解する。 ・幕藩の支配機構、農村支配、経済的基盤、身分制度などの全国支配の仕組み及び鎖国体制を理解する。 ・文治政治の具体的な政策と経済発展を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用 中間考査	36
後期期末まで	幕政の改革 鎖国の動揺 雄藩の浮上 開国とその影響 幕末の動乱	<ul style="list-style-type: none"> ・享保の改革や田沼政治、寛政の改革の担い手と、具体的な政策を理解する。 ・列強の接近の代表的事例を知り、鎖国体制の動揺を招いたことを理解する。 ・藩政改革の特色を知り、雄藩の台頭について理解する。 ・ペリー来航と、開国が国内の社会・経済に与えた影響を理解する。 ・幕末の動乱の経緯について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 ・思考力 ・資料の活用 期末考査	32

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	地理A	2	高等学校新地理A（帝国書院） 標準高等地図（帝国書院）	プリント、パワーポイントなど	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界 身近にあるさまざまな地図 人々の生活と地形	<ul style="list-style-type: none"> ◆白夜の地域と日本とを比較させ、緯度や経度の基本的なしくみを理解する。 ◆東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。 ◆地形を形成する内的営力と外的営力について、その原動力と作用を理解する。 ◆身のまわりには、さまざまな地図があることを理解する。 	<p>○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。○指導内容に関するプリント学習等の作業結果、完成状況。</p> <p>○定期考査。</p>	18
前期期末まで	人々の生活と気候 人々の生活と産業 人々の生活と文化 中国の生活・文化 韓国の生活・文化 東南アジアの生活・文化 インドの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ◆気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。 ◆ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。◆熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の各気候区の分布や特徴を理解する。◆農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。◆さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。◆世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。◆現代世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題について、多面的・多角的に地域の変容や構造を理解する。 	<p>○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。○指導内容に関するワーク等の作業結果、完成状況。</p> <p>○定期考査。</p>	18
後期中間まで	中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 サハラ以南のアフリカの生活・文化 ヨーロッパの生活・文化 ロシアの生活・文化 アメリカ合衆国の生活・文化 ラテンアメリカの生活・文化 オーストラリアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ◆現代世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題について、多面的・多角的に地域の変容や構造を理解する。 	<p>○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。○指導内容に関するワーク等の作業結果、完成状況。</p> <p>○定期考査。</p>	18
後期期末まで	複雑にからみ合う地球的課題 世界の環境問題 世界の資源・エネルギー問題 世界の人口問題 世界の食料問題 世界の都市・居住問題 身近にあるさまざまな地図 日本の自然環境と防災 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ◆地球規模の課題について、どんな地域的特色があるかを理解する。◆世界で起こるさまざまな環境問題について理解する。◆世界の資源やエネルギーの生産地、消費地を理解する。◆世界の人口が急増している原因は何か考察する。◆世界の食料生産・消費には著しいかたよりのあることを理解する。◆都市への人口集中が世界的に進んだ背景と、どのような都市問題が発生しているのか理解する。◆日本の地形や気候の特徴を捉え、どのような自然災害と結びつくかを考察する。◆身近な地域には、さまざまな課題があることを考察する。 	<p>○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。○指導内容に関するワーク等の作業結果、完成状況。</p> <p>○定期考査。</p>	16

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
地理歴史	地理B	4	新編詳解地理B(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	プリント、パワーポイントなど	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	地理情報と地図 地図と地域調査 自然環境	○地図や画像等の地理情報や世界地図に関して、球面を平面に変換することに関する関心と課題意識を高めたか。 ○地図の種類と利用や地域調査に関する関心と課題意識を高めたか。 ○世界の自然環境に関する地域性や規則性、それらの形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ○現代世界の自然環境と人間生活とのかかわりや自然環境に関する課題を積極的に理解しようとしたか。	○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。 ○世界の自然環境に関するプリント学習等の作業結果、完成状況。 ○定期考査。	36
前期期末まで	資源と産業 人口と村落・都市	○世界の資源と産業等に関する地域性や規則性、それらの形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ○現代世界の資源・エネルギー、食料等に関する問題を積極的に理解しようとしたか。 ○世界の人口と村落・都市の分布や動向、その形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ○現代世界の人口と村落・都市等の分布や動向、現代世界の人口、居住・都市に関する問題を積極的に理解しようとしたか。	○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。 ○世界の資源と産業、人口と村落・都市に関するプリント学習等の作業結果、完成状況。 ○定期考査。	36
後期中間まで	生活文化と民族・宗教 現代世界の地域区分 現代世界の諸地域(中国、朝鮮半島、東南アジア、インド、西アジア、中央アジア)	○世界の生活文化と民族・宗教の地域性や規則性、それらの形成要因に関する関心と課題意識を高めたか。 ○地域を区分する方法、地域概念、地域区分の意義に関する関心と課題意識を高めたか。 ○現代世界の諸地域にみられる地域的特色や地球的課題について、多面的・多角的に地域の変容や構造を積極的に理解しようとしたか。 ○世界の様々な規模の地域を、歴史的背景を踏まえて、多面的・多角的に地域の変容や構造を考察したか。	○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。 ○世界の生活文化と民族・宗教に関する白地図、プリント学習等の作業結果、完成状況。 ○定期考査。	36
後期末まで	現代世界の諸地域(アフリカ、EU、ドイツとポーランド、ロシア、アメリカ、ブラジル、オーストラリアとカナダ) 現代世界と日本	○世界の様々な規模の地域の地域的特色や地球的課題に関する関心と課題意識を高めたか。○取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して考察する地誌、特色ある事象とほかの事象を有機的に関連つけて考察する地誌、対照的または類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌という三つの地誌的考察方法を積極的に理解しようとしたか。○世界の様々な規模の地域を、歴史的背景を踏まえて、多面的・多角的に地域の変容や構造を考察したか。	○教室における授業の取り組み状況や発言等の学習状況。 ○世界の諸地域に関するプリント学習等の作業状況、完成状況。 ○定期考査。	32

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
公民	現代社会	2	現代社会 (東京書籍)	教科書、プリント等	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、生涯における青年期の意義を理解させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせるとともに、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立などについて国民生活とのかかわりから認識を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸課題として生命問題、情報問題、環境問題等について、これらの諸課題をとらえ考察するための基本的枠組みを身に付けさせ、社会の在り方を考察する基盤を理解させる。また、青年期は自己を確立する基礎を培う重要な時期であり、親などからの依存を脱却し、自らの生き方を多くの可能性の中から選択しつつ社会とかかわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていく重要な時期であることを理解させる。 人権の保障、国民主権、議会制民主主義、権力分立、法の支配など民主政治の基本原則について理解を深めさせるとともに、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせ、主権者としての意識を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席 平常点 定期考査 	18
前期期末まで	<ul style="list-style-type: none"> 個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせる。 市場経済の機能と限界、政府の役割について、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させるとともに、日本の行政、立法、司法制度について理解を深めさせる。また、法や規範の意義や役割について理解を深めさせ、法意識を高めさせる。 現代の経済社会の変容について理解を深めさせるとともに、市場機構の機能と限界を理解させ、市場の問題点を考察させる。また、政府の役割と財政、租税、金融について理解を深めさせ、日本の経済政策を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席 平常点 定期考査 	18
後期中間まで	<ul style="list-style-type: none"> 雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の現状がどのように成り立っているのか理解を深めさせるとともに、日本経済の現状がどのように成り立っているのか理解させる。また、これまでの日本の雇用、労働、社会保障について理解を深めさせるとともに、今後の在り方について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席 平常点 定期考査 	18
後期期末まで	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が進展する国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に概観し、国際政治や国際経済に関する諸問題などについて理解させる。さらに、国際平和及び国際協力や国際協調を推進する上で国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識させ、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させ、この「現代社会」のまとめとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席 平常点 定期考査 	16

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
公民	倫理	2	高等学校 新倫理 (清水書院)	教科書、プリント等	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方から現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。 先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「青年期における自己形成」「人間としての在り方生き方」について理解と思索を深めさせることが、それぞれ別のものではないことを理解する。また「自己形成の課題」を自覚することは、青年期における「人間としての在り方生き方」を探究することでもあることを認識する。内容として前半は心理学的見地からエリクソンやマズローの欲求段階説などについて理解を深める。 古代ギリシアの哲学、具体的には、ソクラテス、プラトン、アリストテレスといった哲学者の思想を生徒の課題とかかわり付けながら、分かりやすく説明する。具体的に、「無知の知」、「汝、自身を知れ」、あるいはプラトンのイデア論、アリストテレスの中庸といった概念について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点 出席 定期考査等 	18
前期期末まで	<ul style="list-style-type: none"> 人生における哲学、宗教、芸術の持つ意義、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索する。 	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教の成立、本質について系統的に理解を深める。具体的には、旧約聖書、新約聖書におけるイエスの言葉、またその後、アウグスティヌス、トマス・アクィナスといった中世の教父哲学を世界史 B と関連を図りつつ、キリスト教文化、ひいては、西洋文化の本質について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点 出席 定期考査等 	18
後期中間まで	<ul style="list-style-type: none"> 東洋や日本にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 古代中国における諸子百家の思想、その中でも、孔子、老子、法家の思想について生徒の課題とかかわり付けながら、分かりやすく説明する。さらにブッタに始まる仏教の思想について基本的な思想、概念について分かりやすく説明する。また最澄、空海といった人物の、日本への導入過程、影響についても説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点 出席 定期考査等 	18
後期期末まで	<ul style="list-style-type: none"> 東洋や日本にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代における日本独自の思想展開について説明する。具体的には、伊藤仁斎、荻生徂徠、林羅山の思想や神仏習合の思想について生徒の課題とかかわり付けながら、理解を深める。また、明治期に入ってから福沢諭吉らの「啓蒙思想家」の思想・考えを理解させ、現代の西洋思想の「洗礼」を受けてからの日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点 出席 定期考査等 	16

教科	科目	単位数	教科書	使用教材	対象
公民	政治・経済	2	政治・経済 (東京書籍)	教科書、プリント等	旧課程

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期中間まで	政治と国家／絶対王政から民主政治へ 社会契約説／国民主権の成立／権力分立 法の意義と機能／「法の支配」の確立 人権の保障／人権の歴史的展開／ 人権の国際化 議院内閣制／大統領制／社会主義体制	<ul style="list-style-type: none"> ●政治単元の学習にあたり、政治とは何かを認識させる。社会契約説の内容や社会契約説を唱えた思想家の考え方について理解させる。 ●法とは何かを考えさせ、その上で法の支配の歴史を理解させる。 ●18～19世紀における人権論の歩みを学ぶとともに、社会権が確立した歴史と人権の国際化が進んだ現状や人権に関する条件について理解させる。 ●議院内閣制と大統領制の特徴、政治機構を理解させる。 	民主政治の歴史的展開が理解できているか、現在の民主主義の特徴を認識できているか。考查とレポート、授業時の発言等で評価する。	18
前期期末まで	憲法とは／明治憲法の基本原理／日本国憲法の成立／日本国憲法の基本原理／ 憲法の最高法規性と憲法改正 基本的人権／法の下平等／自由権／社会権／新しい人権／人権を実現するための権利／国民の義務 憲法の理念／自衛隊と防衛力／日米安全保障条約／有事体制の確立／自衛隊の海外派遣／平和に向けた努力	<ul style="list-style-type: none"> ●憲法とはどういったものかについて認識させ、日本国憲法の成立過程や内容について、大日本帝国憲法との比較も行いながら理解させる。 ●人権保障の意義を深く認識させ、判例について考察させる。また、憲法に規定されている自由権や社会権などについて学ぶとともに新しい人権についても理解させる。 ●憲法前文や第9条の精神をふまえつつ、自衛権の違憲・合憲論、日米保安のあり方や、PKOや自衛権の海外派遣をめぐる問題について深く考えさせる。 	人権保障の意義を深く理解できているか。憲法の理念について理解できているか。考查とレポート、授業時の発言等で評価する。	18
後期中間まで	経済活動／資本主義の成立／資本主義経済の変容／資本主義経済の修正／社会主義経済／「ゆたかな」社会／企業を支配しているのはだれか／グローバル化と情報化の進展／新自由主義の台頭／経済主体／経済活動の循環／企業の活動／株式会社／現代の企業／市場のメカニズム 市場の失敗／寡占化・独占化／フロー ストック／国民経済の活動水準／経済成長と景気変動／物価と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ●経済活動について理解させ、資本主義経済の特徴とその発達の歴史、経済思想の歩みについて認識させる。 ●グローバル化、情報化、新自由主義など現代の経済の特徴を理解させる。 ●三つの経済主体と経済活動の流れを理解させる。経済主体の一つである企業の役割や活動、株式会社の特色について理解させ、企業の社会的責任について考察させる。 ●市場経済における需要と供給のしくみについて理解させ、市場経済の問題点や競争を阻害する要因について考えさせる。 	経済活動について経済活動を把握するための指標について理解させるとともに、景気変動や市場経済の問題点を理解できているか。考查とレポート、授業時の発言等で評価する。	18
後期末まで	どうする日本の「食」と「農」 TPPと農業の自由化 経済開発／社会開発／経済援助	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバル化が進むなかで日本の農業が抱える問題点を理解させ、農産物に対して自由貿易をとるべき保護貿易をとるべきかを考えさせる。また、将来の日本の農業のあり方についても考えさせる。 ●発展途上国の現状や国連など国際機関の取り組みについて調べさせ、経済援助の意義と問題点を全体で討論させる。先進国と途上国に分かれてロールプレイを行う。 	TPPなどに関連させて農業の自由化について肯定側と否定側に分かれてディベートも行う。考查とレポート、授業時の発言等で評価する。	16